

笠原則孝



## 国民健康保険税の課税方法は適正か

町長 厳しい国保財政である。高額所得者には相応な負担をお願いしたい

**質問**

国民健康保険制度において、当町では「所得割」「資産割」「均等割」「世帯割」の4方式による賦課方式をとっているが、「資産割」は二重課税にならないか。また、国保税の収納は、どのように行っているか。

**答弁**

町長 資産割は、固定資産税の二重取りという批判もあるということですが、群馬県内35市町村中、7市町村が資産割をなくした3方式へ移行している。しかし、資産割をなくすと、現在資産割でいただいている分を所得割等へ転化しなくてはならない。当町としては、国保運営協議会等に相談しながら、慎重に対応していきたい。また、滞納者に対しては、財産調査を行うとともに、常時納税相談を行うなどの対応を図っている。

**質問**

再生可能エネルギーの検討研究を行っているか。県内では太田市・榛東村が7月から発電を開始し、近隣市町村においても続々と名乗りを上げている。玉村町の考えを問う。

**答弁**

町長 当町では、住宅用太陽光発電システムを推進しており、太陽光発電設置補助を継続している。昨年は、119件の申請があり、492キロワットの太陽光発電所となっている。今後も、積極的に推進していく。



太陽光発電システムを設置した住宅

**質問**

町内の朝の交通渋滞を緩和する対策を求め。

**答弁**

町長 玉村町全体の交通渋滞対策を進めるためには、横軸である東毛広域幹線道路の早期整備が必要であり、次の段階で、縦軸である藤岡大胡バイパスを整備することが重要だと認識している。群馬県と玉村町が連携し、総合的に解決していかなければならないと考えている。

石内國雄



## 再生可能エネルギーの利用推進を!

町長 専門的な研究部門をつくることを考えたい

**質問**

町は、積極的に再生エネルギーの利用を推進すべきと考える。町には、現在具体的に検討している部署等があるか。太陽光の事業の可能性・効果を検討するPTを設置してはどうか。耐久性の高い公共施設を大いに利用して経費軽減・収入確保を図れ。現在住宅用の太陽光発電に対する補助を事業者・企業にも広げたらどうか。玉村町は太陽光発電を積極的に推進し太陽光発電の推進に寄与すべきである。

**答弁**

町長 現在そのような部署はないが、太陽光について専門的な研究をする部署をつくることを検討し、公共施設利用についてのチャンスととらえたい。企業は面積もあり、かなりの電力も期待でき、検討の価値はあると思う。

**質問**

町道の安全を図るためには、区長等からの情報を受けているが、区長等の情報は重要と考えている。提案として検討したい。

**答弁**

都市建設課長 職員から情報を受けているが、区長等の情報は重要と考えている。提案として検討したい。

**質問**

道の駅計画の状況と、施設の概要は。

**答弁**

町長 平成27年4月のオープンを目標に、開発許可について県と協議をしている。農振除外申請を今年度7月にした。直売所を中心とした表の顔と、有事の際には町民に対しさまざまな支援ができるような防災機能を充実させていきたい。



種別	多結晶シリコン型太陽電池
最大出力	2500W
設置枚数	50枚
発電出力	10.0kw
設置メーカー	日清ソーラー

## 特色あるまちづくりの具体案を問う

**町長** 第5次総合計画・都市計画マスタープランの  
具体策を肉づけしていく



島田 栄一

**質問**

特色あるまちづくりをするには、「東毛広域幹線道路」及び「高崎・玉村スマートインターチェンジ（仮称）」の開通は、まさに千載一遇のチャンスである。抱負を伺いたい。

**答弁**

町長 県央の利便性を生かし、道の駅構想及びスマートインターチェンジ周辺開発事業等の検討を重ねながら、着実に進めていきたい。



今後変貌著しい玉村町  
(東毛広域幹線道路)

**質問**

田園花火大会を玉村町の観光の目玉としていくためには、現在地で行うことが望ましいと考える。東毛広域幹線道路が完成した後、通行どめや迂回の方法

をとってでも続行できるように、監督官庁に働きかけるべきである。

**答弁**

町長 来年度の花火大会については、県へ要請している。その後についても十分努力したい。

**質問**

玉村町経営改革町民会議の意見を、どれだけ行政に反映しているか。

**答弁**

町長 今回の意見書のテーマは協働である。町づくり活動支援補助金の創設、ファミリーサポートセンター事業の導入等を反映させている。今後も、可能な限り反映させていきたい。

**質問**

J Aの支所統合が、玉村町だけ決まらない状態が続いている。町当局として、このことをどう思うか。

**答弁**

町長 J Aの支所統合同問題はJ Aの問題であり、行政側から関与することではないと考える。今後の推移を見守りながら、協議していきたい。

## 高崎・玉村スマートインターチェンジ（仮称）周辺開発の展望は

**町長** 「スマートIC周辺地区まちづくり協議会」で協議する



宇津木 治宣

**質問**

「高崎・玉村スマートインターチェンジ（仮称）」の完成で、玉村町の交通便利性は、他市町村にならざるを得ないほどの優位性を持つこととなり、その活用が重要になる。「道の駅」や「農産物直売所」などを置いた、複合的な集客施設の進捗状況は。

**答弁**

町長 平成27年4月のオープンを目標に、農振除外申請をした。開発許可について県と協議している。



高崎・玉村スマートインターチェンジ（仮称）完成予想図

**質問**

「道の駅」や「農産物直売所」を成功させるには、農畜産物の玉村ブランドが求められるのではないか。

**答弁**

町長 地域ブランドをつくるには、産地の背景、歴史などを織り込んだストーリーのある商品をつくるのがヒットの秘訣だと聞いている。これまでも、地元野菜を使った「ジェラート」や米粉を使った「クレープ」などを開発した。今後は、日本一の出荷量を誇る食肉卸売市場の食肉を使った商品の開発も課題だ。

**質問**

東毛広域幹線道路北側の民有地32・7ヘクタールを中心としたエリアの、「企業誘致を軸とした開発構想」を打ち出したが、展望はあるのか。

**答弁**

町長 「スマートIC周辺地区まちづくり協議会」を設立した。この協議の中で、開発構想を進める。

**質問**

高崎市や伊勢崎市なども開発を進めている。これらとの関連は。

**答弁**

町長 両市においても、工業団地などの計画を進めている。玉村町らしさを生かしながら、各施策や事業で協力しあえる部分は連携し、相乗効果を図っていきたい。